

るよう設計がなされている。この分析計の検出限界はCO計0.2%、CO₂計で0.1%になっていた。しかし長期間の連続定量で保証される値は、フルスケールの1%が限界である。さらにこの値を上げるには、自動校正装置を附加し、校正の頻度を高めれば、上記の値まで近づく。

保守ならびに感度、精度をガスクロマトグラフと比較した場合

比較のため使用したガスクロマトグラフは自動サンプラーを備えた島津GC-2型分析計で、これは極性および感度の自動切替機構をもたない実験用である。そのため工業用の赤外線ガス分析計と比較することは許されない。赤外線ガス分析計の設置条件（特に振動、周囲温度など）ならびに操作に十分注意を払いプロセスガスクロと共通した点に問題をしばらく比較を行なつたはじめに保

守の点であるが、ガスクロマトグラフは、クロマト条件ならびに保持時間、標準ガスによるガスクロマトグラムのピークの検定、すなわち、補正係数の決定などについて頻繁に保守を行なう必要がある。また分離剤の取替ごとに検量線を作成しこれにより補正値を求めなければならない。一方、赤外線ガス分析計は1日1回標準ガスならびにN₂によるspanおよびzero driftの検定と校正を行なうのみで保守は赤外線ガス分析計が簡単である。

感度についてはガスクロマトグラフが高い、しかしCOについてはキャリアガスの種類によつては赤外線より劣る。

測定精度は両者間に差はみられなかつた。しかし赤外線ガス分析計は校正前後で若干の偏りが測定値に生じると共に気圧の変動による影響も受ける。

Tetsu-to-Hagané Overseas 名称変更についてのお知らせ

— Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan —

本会では、わが国の鉄鋼に関する学術・技術を海外に紹介し、わが国鉄鋼業に対する世界の認識を高め、かつ活発な交流を図る目的をもつて、昭和36年より鉄と鋼海外版「Tetsu-to-Hagané Overseas」を年4回刊行してまいりました。本誌をさらに一段と充実させ、わが国における最も信頼できる、代表的かつ最高の学術技術誌に発展させるために、本年度より名称を下記のごとく変更することになり、また発行回数も従来の年4回から年6回に増刊することになりました。（巻、号は継続いたします）

記

Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan.

(旧名称 Tetsu-to-Hagané Overseas)



Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への

論文投稿のお勧め

本会編集委員会では、Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への会員各位の論文投稿をお待ちいたしております。

従来は原則として、鉄と鋼誌に掲載された論文から掲載論文の選定をしてまいりましたが、優れた研究成果を海外に早期に紹介するには時間がかかりすぎておりましたので、編集委員会では、会員各位が本誌に自由に投稿できるように、Transactions 論文寄稿規程を設け、昭和41年1月1日より実施いたしております。

講演大会に未発表でも、会誌に未掲載の論文でも投稿できますので、会員各位奮つて優れた研究成果をご投稿下さるようお待ちいたします。

なお、寄稿規程は本誌1291ページに掲載してあります。